

Olympic
Movement

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

宮城県 蔵王町立宮中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成30年9月6日（木）

■ク ラ ス：2年1組（41名）

■オリンピアン：荻原 健司 先生(スキー・ルディック複合)【出場オリンピック/アルペシル大会、リレハンメル大会、長野大会、ソルトレークシティー大会】



■授業のながれ：運動の時間（5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、事業の目的として「オリンピアンと一緒にオリンピックがどのようなものかを考えること」、またオリンピックバリューについて「エクセレンス＝一生懸命、真剣に取り組むこと」「フレンドシップ＝友情、協力する」「リスペクト＝尊重、ルールを守ること」と説明した。
- ・体育館を大きく使えスキップ等を織り交せたジョギングを行った後、大きな円になりストレッチを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・そりりレー(6班対抗、全2回)を実施。①2人組になり、1人がそり(バスマット)の上に蹲踞の姿勢で乗った状態で紐を握る。もう一人は進行方向を向き、帯状の紐を腰に巻いて(引っ掛けて)引っ張りながら進む。②折り返し地点に設置したマーカーまでいったら役割を交代してスタート地点に戻り、次の組へリレー、全組終了し、全員が座った時点でゴールとすることをルールとした。
- ・紐がたるんだ状態から急に引っ張られると、後ろの人が転んでしまうこと等の注意点を説明し、ペアの組み方や相手を思いやる気持ちを忘れないこと等を伝えた。

4. まとめ



- ・そりりレーでは、チームワークを発揮することができ、また、それぞれの生徒の意外な一面が見られる等、楽しめたのではないかと感想を伝える。加えて、そりりレーというものに初めて取り組むに際し、ルール説明を皆が真剣に聞く、仲間同士で一丸となって協力し合う、全力で取り組む等、冒頭に紹介した「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」というオリンピズムが随所に見られ、オリンピック選手と同じハートを持って取り組んでくれたことに感謝の気持ちを伝える。



■ 授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・オリンピックとは何か考えていきたいと授業の目的を確認。オリンピックと聞いて何を思い浮かべるかと発問し、「メダル」「スキー」等の意見が挙がる。
- ・荻原先生が用意したパワーポイントを使用しながら授業を展開。オリンピックの問題に答えながらオリンピックについて考えてみようと話す。
- ・各班にシートと10色ペンを配布し、オリンピックシンボルマークを描くことからスタート。

2. オリンピックの価値を伝える



3. オリンピッククイズ



- ・オリンピックについてのクイズを通し、クーベルタンがなぜオリンピックを開催したのかを説明。
- ・オリンピックはエクセレンス(卓越、諦めない)、フレンドシップ(友情、お互いを理解する)、リスペクト(敬意、尊重)の3つのオリンピックバリューから成っており、これらのオリンピックバリューを世界中の人と共有することがクーベルタンの願いだった。
- ・国際平和を目指して始まったのがオリンピックであり、東京大会ではそのような点にも注目してもらいたい。オリンピックバリューは選手だけでなく、誰もが持てる精神であると話す。

4. まとめ



- ・選手時代は思うように成績が伸びない時もあったが諦めずに誰よりも練習を積み重ねたことでオリンピックに手が届いた。皆がこれから大人になる過程で苦しいことや辛いこと、色々な困難があると思う。そんな時にこそ頑張ってもらいたい。スポーツでも勉強でも自分の好きなもの、得意とするもの、絶対に頑張れるというものを見つければ、どんな困難も乗り越えられる力が湧いてくる。好きなことだからこそ、とことん頑張ろうと思える。自分の好きなものを見つける人生にしてほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

2年1組



■ 記念品贈呈

2年1組



■ 修了証贈呈

